

7. 低炭素社会に向けた処理施設の活用

7-1. 廃棄物エネルギーの利活用

7-2. 発電電力の地産地消

◎現状／課題

○廃棄物エネルギーの利用状況

- 小規模施設（鎧瀉、豊栄）では、発電能力が低い、または発電設備が設置されていないため、十分に廃棄物エネルギーを活かしていない。
- 熱エネルギーの利用先が、プールや温浴施設に限られている。

○発電した電力の活用先

- 廃棄物発電は、二酸化炭素排出量が少ない電力であるが、これまで単純な売却により、地域外で消費されていた。
- 今年度、次の事業により発電電力の地産地消を開始し、地域の低炭素化を図っている。
 - 新潟市地域新電力事業
（民間業者と市が出資する地域新電力を通じて、新田清掃センターの発電電力を市有施設に供給。）
 - 発電電力の自己託送モデル実証事業
（東北電力の送電線網を利用して亀田清掃センターで発電した電力を市有施設に送電）

◎今後の方向性

○廃棄物エネルギーのさらなる利活用

- 発電能力の向上
施設統合により更新施設を大規模化し、効率的な発電により発電能力を向上。
- 熱エネルギーの活用検討
地域活用や産業振興など、熱エネルギーの活用方法を検討。

○廃棄物発電の地産地消の拡充

- 市有施設に限らず、市内の民間施設も含め、送電先の拡大を検討する。

◎関連事業（既存／新規）